DUNLOP NEXT CUP
EXGEL 新東京シリーズ第 1 戦

開催日：4 月 9 日
開催地：新東京サーキット（千葉県）
天候：雨

TreeBond 神戸シリーズに遅れること 1 週間、ダンロップネクストカップ EXGEL 新東京シリーズ開幕戦が、4 月 9 日に千葉県・新東京サーキットで開催された。今季から、開催コースを関東随一の人気コースともいわれる新東京サーキットに変更。ただし、シリーズタイトルスポンサーは引き続き EXGEL がつき、今季のニューカラーに彩られたマシンが集結した。

開幕戦には、神戸を超える 15 台がエントリー。今回は、今季 DNC スカラシップにより全日本カート選手権 OK クラスにダンロップ＆EXGEL ドライバーとして参戦する環優光も参加。初めての新東京ながら、その存在感で注目を集めた。

レースウィークは、全体的に不安定な天候となり、前日の練習走行もなかなかドライコンディションにならない状況。今季から採用されたオールウェザー対応の SL98 タイヤが、もっとも活躍するコンディションといってもいい。レース当日も、朝から雨が降り続き、時折強くなるなど、終始レインコンディションでの走行となった。

今回のレーススケジュールは、公式練習とタイムトライアルが完全に分かれて行われるため、公式練習の状況でタイムトライアルに向けマシンセットを変更する時間もあり、より状況に合わせこんだマシンでのタイムアタックとなった。

そのタイムトライアルでトップタイムをマークしたのは、前日練習からそのタイムが注目されていた坂入悠斗。同じくタイムの良かった皆木駿輔のスリップをうまく活用してトップタイムを叩き出す。2 番手には皆木、3 番手に環が続いた。

予選ヒート、決勝ヒートともに降雨のため周回数を減算。予選は 8 周、決勝は 12 周に変更された。

予選ヒートでは、坂入と皆木が接近戦を展開する一方、3 番手スタートの環は序盤の混乱の中で他車と接触しスピン。大きく遅れた最後尾から追い上げを図ることとなる。

トップ 2 台は時折ポジションを入れ替えるものの、最後まで大きな波乱はなく、最終ラップに前に出た坂入、皆木の順でチェッカー。3 番手に宇田川武嗣、4 番手に川福健太と続き、環は集団に追いついたものの、12 位にとどまった。

迎えた決勝、やや雨は小降りとなったものの、依然路面はフルウェット。スタートでは巻き上がるウォータースクリーンで、後続のカートが霞むほどだ。

決勝も、坂入と皆木が接戦を展開。その 2 台に中村洋司も続き、チャンスを虎視眈々と狙う。後方では 12 番グリッドスタートの環が好ダッシュで順位を上げ、さらにポジションの挽回を図る。

トップ 2 台は接近戦のままレース終盤へ。ここでスパートを掛けたのが皆木。ファイナルラップにファステストを記録する底力を見せ、坂入を振り切ってチェッカー。DNC デビューレースを優勝で飾った。2 位はわずかに競り負けた坂入、3 位には終盤に中村もかわした環が入った。

●皆木駿輔
決勝はうまく走れましたが、予選は最終ラップに自分のミスで順位を落としてしまったので、そこは悔いが残ります。決勝は、スタート直後は接戦でしたが、最後は自分なりの走りができて離れたので良かったと思います。電光掲示板を見る限り、タイム差がちょっとずつ生まれていたので、それは余裕にはなったのですが、でも気を引き締めてプッシュし続けました。次回以降も優勝目指してチャンピオンを穫れるように頑張りたいです。

●坂入悠斗
タイムトライアル、予選とポールで、もてぎ選手権でも負けている相手だったので勝って再来週の全日本開幕に臨みたいなと思っていました。バトルをしていて負けている部分、勝っている部分があって、負けている部分が大きく出てしまい、それが差になったのかなと思います。レインでしたが、自分もできると自信もつきましたし、バトルでの課題をクリアしていけば十分勝てると思います。

●環優光

今日の敗因は、予選から始まっていて、ペースも良かったので落ち着いてレースをしていれば、優勝できていたのかなと思います。今後の全日本の活動に向けいい経験になったので、全日本で頑張っていきたいと思